

MACF 礼拝説教要旨

2025 年 8 月 3 日

「あなたはどこにいるのか？」

創世記 3 章 8～15 節

8 その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、

9 主なる神はアダムを呼ばれた。

「どこにいるのか。」

10 彼は答えた。

「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。

わたしは裸ですから。」

11 神は言われた。

「お前が裸であることを誰が告げたのか。取って食べるなど命じた木から食べたのか。」

12 アダムは答えた。

「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました。」

13 主なる神は女に向かって言われた。

「何ということをしたのか。」女は答えた。

「蛇がだましたので、食べてしまいました。」

14 主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前はあらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で呪われるものとなった。

お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。

15 お前と女、お前の子孫と女の子孫の間にわたしは敵意を置く。

彼はお前の頭を砕きお前は彼のかかとを砕く。

1) 主なる神の顔を避けて

禁断の木の実を食べてから男と女の間に「違和感・羞恥心・疎外感」が生まれました。罪によってもたらされた深刻な分断であり関係における「死」でもあります。さらに彼らは、彼らを創造し、環境を彼らのために整え、役割を与え、生きる目的や意欲を与えてくださった神様に対して「うしろめたさ」を感じ、こそこそ隠れないと、いられないような居心地の悪さを味わっています。罪責感に圧倒されています。

2)どこにいるのか？

神様は人に向かって呼びかけます。

「どこにいるのか？」

この呼びかけは、おそらく、今の私たちにも届いている呼びかけだと思います。

私たちは神様との関係の中で「どこにいるのでしょうか」

神様の心を知ることもせず、勝手に神様の心と私たちへの姿勢を創造し、私がどこで何をしようとして神様には痛くも痒くもないだろうと結論づけて神様に向き合おうとしない、神様の呼びかけに応じようとしないのが私たちではないでしょうか。

呼ばれても、そして呼ばれていることを知っていても無視を決めつけるとすれば

人間社会、人間関係においてははずいぶんひどい対応だと思います。

でも、私たちは神様に対して、同じような態度を取ることがあまりに多くはないでしょうか。

3)咎めと言ひ訳。相手への非難

人は神様の呼びかけを無視することができず、苦し紛れの応答をします。

10 彼は答えた。

「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。

わたしは裸ですから。」

本来人間は、罪さえなければ、神を怖がる必要はなく、おそろしさを感じる必要もなく隠れる必要もありませんでした。

しかし、今は罪が神様と人との間の障壁となっています。

神様は次の質問を発しました。こんなやりとりになっています。

11 神は言われた。

「お前が裸であることを誰が告げたのか。取って食べるなど命じた木から食べたのか。」

12 アダムは答えた。

「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました。」

神様の質問はふたつ。「裸であることを誰が告げたのか」「取って食べるなど命じておいた木から食べたのか」

裸であることは告げられたわけではなく、取って食べてはならないと言われていた木から食べた結果、

気付かされた内容でした。そして、その木から食べたかどうかは、イエスかノーの答えで十分でした。

つまり、神様は人に対して「神様、お赦してください、あなたが禁止していたあの木の実を食べてしまいました。そのため心が痛み、咎めを感じ、あなたへの恐怖心を持っています。」と素直に告げることができれば良かったのです。

しかし、人はそのような答えを発してはいません。むしろ、自分のことは棚に上げてすべて他者のせいにしています。いいえ、これらの問題は神様のせいだとさえ聞こえます。すさまじい責任転嫁です。

12 アダムは答えた。

「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました。」

神様の質問にきちんと向き合っていないのです。

「神様、あなたの責任です。あなたがあんな女を隣に置かなければこんなことにはなりませんでした」

と言っているからです。自分の非を認めず、神様のせいに、そして相手の女性のせいにする態度は

実は私たちも案外、得意かもしれません。

すると神様は女に質問しています。ここでも男とほぼ同じ姿勢でが帰ってきます。

13 主なる神は女に向かって言われた。

「何ということをしたのか。」女は答えた。

「蛇がだましたので、食べてしまいました。」

つまり、悪いのはわたしではありません。蛇です。

という答えです。

これらの態度では「関係の修復は難しく、和解の道は遠い感じがします。

しかし、神様の愛はそこに届くのです。

4) 原福音の宣言

15 お前と女、お前の子孫と女の子孫の間にわたしは敵意を置く。

彼はお前の頭を砕きお前は彼のかかとを砕く。

この箇所は「原福音」と呼ばれていて、イエス様の十字架の死と復活によって

勝利がもたらされ、蛇によって代表されている「悪」が粉碎されるという
預言の言葉と理解されているのです。

* * * * *

MACF 礼拝説教映像は

<https://youtu.be/0m5eUTs3s5g>